

部活動の地域移行について

田淵 地域移行の進捗状況は。

答弁 本市の地域移行に関わる状況は令和4年度の中学校総体以降、合同部活動を毎週土曜日を実施。複数の指導者体制を整備し関係者と協議を重ねております。また令和5年度の中学校総体から地域クラブ活動や合同チームでの参加が可能となりました。

田淵 地域移行を進めるための支援は。

答弁 国や県のような体制や補助があり、今後保護者の方の負担に対しては、地域移行期間中における国の補助を活用できないか検討していきます。また保護者や関係者とも協議を進め、いかに物的支援及び人的支援の展開ができるか研究を進めていきます。

田淵 地域移行後の生徒の健康管理は。

答弁 指導者や保護者の方には部活動のガイドラインに示された方針に従い、地域移行後も事前の体調把握や練習過多にならないよう、教育委員会が指導する立場だと考えています。



田淵 厚 議員

す。

田淵 地域移行の課題は。

答弁 新しい競技環境への支援、運営体制や指導方針の共有、活動時間、活動の継続性、物的支援、人的支援など学校部活動と連携し、道具の共有使用ができるよう働きかけていきます。



SAGA2024大会について

中島 進捗状況は。

答弁 実行委員会を設置し審議、準備を進めています。緑が丘弓道場は昨年4月に供用を開始、スボーツクライミングのボルダール施設は6月24日に完成式典が行われました。

中島 街なかのにぎわい創出、観光振興は。

答弁 開催期間中、競技会場内に売店、総合案内所の設置などを計画中です。また、市内の事業者や関係団体と協力し、市内の回遊性が生まれるよう努めていきます。

中島 今後の事業計画は。

答弁 今秋の鹿児島国体では関係するスタッフが現地で調査し、今後に生かします。また来年6月にはスボーツクライミングのリハール大会を予定しています。

職員の健康管理について

中島 休職に関する市の状況は。

答弁 現在メンタルヘルス不調、その他の疾病により休職している職員がいます。



中島 慶子 議員

中島 健康管理の取り組みは。

答弁 健康診断が人間ドックを必ず受診するようにし、健康診断受診率は98%です。メンタルヘルス対策として月1回臨床心理士、年2回管理職による面接を行い、不調や変化に早く気付くように努めています。



「教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度負担率の引き上げを求める意見書」を可決しました

厳しい財政状況の中、独自財源による人的措置等を行っている自治体もありますが、自治体間の教育格差が生じることは大きな問題です。義務教育費国庫負担制度については、国庫負担率が2分の1から3分の1に引き下げられました。国の施策として定数改善にむけた財源保障をし、子どもたちが全国のどこに住んでも、一定水準の教育を受けられることが重要であり、ゆたかな子ども学びを保障するための条件整備は不可欠です。こうした観点から、2024年度政府予算編成において下記事項が実現されるよう強く要望いたします。

記

1. 中学校・高等学校での35人学級を早急に実施すること。また、さらなる少人数学級について検討すること。
2. 学校の働き方改革・長時間労働是正を実現するため、加配教員の増員や少数職種配置増など教職員定数改善を推進すること。
3. 自治体で国の標準を下回る「学級編制基準の弾力的運用」の実施ができるよう加配の削減は行わないこと。
4. 教職員の処遇について新規採用を

5. 新卒者の就業機会や教職員の年齢構成のバランスの確保等の観点から十分に考慮し、すべての自治体で定年引上げ期間中に教職員の安定的な新規採用ができるよう、定数加配措置をはじめとした必要な財政措置を講ずること。
6. 教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため、地方財政を確保した上で義務教育費国庫負担制度の負担割合を引き上げること。

(一部抜粋)



議会広報委員会

- 委員長 廣橋 時則
 副委員長 市丸 勝義
 委員 彌富 博幸・尾形 武史
 坂口 絹代・渡島 幸司

